

台大病院、内視鏡で複雑性大腸ポリープ切除

- ◆ 出典：国際医療センター
- ◆ 発表日：2009年09月02日
- ◆ 翻訳：国際医療センター
- ◆ 訳文発表：2010年01月25日

アメリカに暮らしていた時、私は仕事に没頭し、できるだけお金を多く儲けるようにしました。ずっと健康を無視したあげく、ついに便に血が混じっていたことに気が付いた時には、もはや後の祭りでした。初めてアメリカで大腸検査を受けていた時、「これはがんに間違いないよ、どのポリープもブドウぐらい大きいからね。」と、看護師に話しているのが聞こえました。

一回目の大腸検査は、ポリープの数が多すぎるから、医師の手が痺れてしまったことで中止しました。この二年間、私は検査を4回受けましたが、がん細胞は全然見つかりませんでした。代わりに、4回目の検査で、右の方の腸が深く切られて出血が止まらなくなり、救急外来へ送られました。

2008年私は香港で5回目の検査を受け、ポリープを27個も切除しました。医師は私の腸の一部分は出血が止まらない恐れがあるから、ポリープ切除の代わりに、その部分全体を切除したほうがいいといわれました。しかし、私は外科手術がとても嫌なので、以前から台大病院ではこの方面に関しての専門の医師がいることを知っていたので、さっそく台大病院へ6回目の大腸内視鏡検査を受けに行きました。すると、私の予想をはるかに超え、医師たちはなんと内視鏡ですべてのポリープを切り取ってしまいました。彼らのおかげで、私は腸の外科手術を受ける必要もなくなりました。しかも医療費はとても合理的で、私は台大病院に対してとてもいい印象を持つようになりました。台大病院の医師たちがこれからも彼らのご専門を生かしてもっと多くの方々を助けられるよう、心から祈っております。

註：私、解国棟はこの感想文が台大病院のサイトやパンフレットに載ることを同意します。 2009.08.13